

え！ それだけは…嫌あツ！」

？」

…出来ちゃうからあツ！」

でもない男の子種で妊娠しちゃうと困るよね」

からね。ユイちゃんがちゃんと
お願いしたら止めてあげるかもしれないよ？」

お願い…します…中に出さないでえ…！」





「ほら 暴れないで。これじゃいつまで経っても終わらないよ？」

「い 嫌あ…」

「嫌じゃないでしょ？ いいの？ 僕の言う事を聞かなくちゃ
ユイちゃんの秘密みんなにバラしちゃうよ？」

「そうになったらもうユイちゃんはこの街に
居られなくなっちゃうよ？ 困るよね？」

「うう…」

「よし良い子だ。じゃあそのままじっとしててね」

「い…ッ！ ああ…や…ダメえ…ッ！」

「濡れてないから痛いよね？
でも少しずつ慣れていくと思うから最初は我慢してね」

「うう…！ やだ…騎士クン…助けてえ…ッ！」

「岸くん？ 誰だいそれ？ 残念だけどこんな場所に
誰かが来ることなんてないと思うよ？」

「それに今更もう手遅れだからいい加減諦めようね？」

「はうらッ！」

「ほら、全部入っちゃったよ。僕のチンポがズッポリとユイちゃんのおまんこに…」

「凄い締め付けだ…もしかしてユイちゃん初めてだった？」

「…ッ」

「初体験がレイプだなんて
一生忘れられない思い出になっちゃうね」

「じゃあ鮮明に記憶に残るようにたっぷり時間を掛けて
念入りに犯してあげるからね」

「嫌あ…もうやめてえ…」

「おまんこ」

「チンポ」

「良いねえ…この狭い穴を掻き分けている感じ。いかにも処女だね」

「ユイちゃんもこの痛みをしっかりと覚えておこうね。人生に一度きりなんだから」

「うう…騎士クン…騎士クン…」

「岸くんじゃないよ。僕だよ？
ユイちゃんは弱みを握られて犯されているんだよ。
現実逃避は良くないなあ」

「お願い…もう許して…くう…ツ」

「何言ってるの？ まだ始まったばかりだよ。
ほら倒れないようにしっかり足に力入れて」

「うぐ…やあ…」

「うう」

「うう」
「うう」





「はあ はあ やだあ…」

「やだって言うてる割にはだいぶ滑りが良くなってるじゃない？
本当は気持ち良くなってきてるんでしょ？」

「そんな…痛いだけ…早く終わらせて…」

「早く終わるかどうかはユイちゃんの頑張り次第かな。
もっとエッチな声出して興奮させてよ」

「そうすればすぐに終わっちゃうと思うよ」

「そんなの…ああ…無理い…くうッ」

「そうかな？
案外もうすぐ出せるようになると思うけどね」

ニゅん

ニゅん

「ああッ…やあ…だめ…んッ…違うのお…くうんッ」

「何が違うの？ 気持ち良くなってるんでしょ？
おまんこぐちゅぐちゅになってるし声が艶っぽくなってるよ？」

「そんな…あふッ…ことは…うぐ…ッ」

「認めたくないよね？

「レイプされてるのに気持ち良くなっちゃうなんて」

「でも仕方ないよ。セックスは気持ち良いものなんだから。

「女の子の体はそうできてるのだから」

「好きな男以外のチンポでよがっちゃってもユイちゃんの
せいじゃないんだからさ。我慢しないでエッチな声出しちゃおうよ？」

「くう…ッ う…うう…ッ」

「強情だなあ…

「それならもっと激しくしちゃおうよ？」

ニゅ
ニゅ

ニゅ
ニゅ

「ひあんツ!♥ やッ!♥ やめッ♥ はああツ!♥」

「ほおら、やっぱり我慢してたんだ。エッチな声いっぱい出しちゃってるじゃん」

「フフフ…ユイちゃんの可愛い声聞いてたら興奮してきたよ。
これならすぐに僕もイけそうだよ。良かったねユイちゃん」

「ひうツ…ちが…ああツ!♥」

「ほらほら、もっと聞かせてよ!
ユイちゃんのおえぎ声をさあ!」

「あああツ♥! らめえッ♥♥!!
これ以上は…ほんとに…もう…ツ! あうツ♥!」

「あーん」

「あーん」

「あーん」

「あーん」

「あーん」





「ああ…来たよ…もういきそうだな…出すよ…ユイちゃんの膣内にいっぱい…ううッ」

「え…？ だだめえ！ それだけは…嫌あッ！」

「なんで駄目なの？」

「あ 赤ちゃんが…出来ちゃうからあッ！」

「そうだね…好きでもない男の子種で妊娠しちゃうと困るよね」

「僕も鬼じゃないからね。ユイちゃんがちゃんと
出さないでってお願いしたら止めてあげるかもしれないよ？」

「出さないでえ…お願い…します…中に出さないでえ…！」

「うーん どうしようかなあ…ううッ」

ずちゅっ

ブレンッ♡

ブレンッ♡

ずちゅっ

H-155



「いやあああああッ!!!」

「ごめんごめん、ユイちゃんの膣内が急に締め付けたからつい…」

「抜いて…抜いてえ!!!」

「いやもう全部出し切っちゃったから手遅れだよ」

「そんなあ…いやああッ!!!」

「ごめんね」

「酷い…ああ…ツ」

「泣かないでユイちゃん。膣内に一回出されたからって必ず妊娠するってわけじゃないからさ」

「うう…ツ やだあ…ああ…ツ」

「まあ レイプの場合、妊娠の確率は上がるらしいけどね」

「嫌ああッ！！」

「はあ…面倒くさいなあ」

「これ一回目でしょ？ まだ終わりじゃないんだから
気をしっかり持って相手してくれなくちゃ困るよ？」

「！？ やだあッ！ もうやめてえッ！」

「だ一め。ほら、逃げようとししないで。
往生際悪いよ？」

「いやあああッ！！」

ズ
ッ

「ふう…いっぱい出したなあ…ユイちゃんみたいな可愛い子が相手だとたくさん出るよ」

「ユイちゃんもお疲れ様。今日はこれで終わりにしようか？」

「う…」

「あれ？ 反応薄いなあ。ほらしっかりして」

「…騎士…クン」

「だからそんな人は来てくれないから…
諦めが悪いなあユイちゃんは」

「今後もまたするんだからさ
初日でこんなんじゃ先が思いやられるなあ」

「…」

「じゃあ僕は先に帰らせてもらうよ。
ユイちゃんも暗くならないうちに帰った方がいいよ？」

「じゃあまた遊ぼうね。ユイちゃん」

「…」

むわあ…













